

## 利益追求型ダイナミック戦略のヘッジ比率

オーバーレイマネージャーに為替ヘッジを任せる場合、ヘッジ比率の変更の度合いを予め決めておかなければならない。このヘッジ比率の変更は0 - 100%の間で行われることが一般的である。また、このヘッジ比率の変更の幅に影響を与える要素としてはヘッジ戦略に必要な取引対象通貨の数、その通貨とヘッジ対象通貨との間の相関関係、そしてリスク許容度が上げられる。

頻繁にヘッジ比率を変更する利益追求型の戦略では取引の対象となる通貨を必ずしもヘッジ対象通貨に限らない。取引通貨を増やすことで、収益の機会を増やし、少ない建て玉をもとに最低限のリスクで確実に利益を積み上げていく。ただしこのような戦略では、ヘッジ対象通貨とは異なる通貨を取引するために、時としてヘッジ対象通貨の値動きとヘッジ玉の価値の動きが反対方向とはならないことがある。そのためヘッジ対象通貨の価値が下げている状況でヘッジの建て玉も損失を発生するという最悪の事態が起こる可能性がある。このような状況を極力回避するために、利益追求型のダイナミック戦略では予め定められた基準ヘッジ比率を中心に上下それぞれ25%程度ずつヘッジ比率を変更することが普通である。たとえば、50%を基準ヘッジ比率とし、そこから上下25%のヘッジ比率の変更が許されている場合、ヘッジ比率は25%から75%までとなる。ただし、この限られたヘッジ比率を適切に分配すれば、それぞれの通貨の建て玉はさらに小さくなる。ヘッジ対象通貨が長期的な下落トレンドに入るとこの戦略ではアンダーヘッジとなり、グローバル投資のパフォーマンスの悪化を食い止めることはできない。同様に上昇トレンドにおいても、その利益を十分に得ることはできない。一方、このタイプの戦略が威力を発揮するのは取引対象通貨がレンジ相場にある場合である。相場の山と谷を的確に捉えることができれば、たとえ狭い範囲のヘッジ比率の変更でも利益を積み上げていくことができる。特に為替相場全体がもみ合いの相場にあれば、収益率も安定し、理想的なヘッジ戦略が展開される。つまり、この戦略のポイントは、ヘッジ対象通貨に大きなトレンドが出たときのアンダーヘッジの状況を取引対象通貨のもみ合いの相場で小さな建て玉を用いて収益を積み上げ、その収益でアンダーヘッジの状況を補うことである。もしこれが実現できなければ、この戦略は十分なヘッジ機能を果たさず、基準ヘッジ比率の変更、取引対象通貨の変更、またはヘッジ比率変更の幅を調整しなければならない。このような微調整は委託者のリスク許容能力に大きく左右される。

	ヘッジ比率変更の幅	
	大きい	小さい
取引対象通貨の数	少ない	多い
取引対象通貨とヘッジ対象通貨の相関性	強い	弱い
リスク許容能力	大きい	小さい